

『今日は、東円寺に残る古文書、大我講の講中名簿にある子孫の話であったな。今年2月、現在は甲州市にお住まいの方が訪ねてきたんじゃよ。その方の話では、先祖伝来の家の神棚を掃除していたら「大我講」と書かれた古い文書が出てきたというんじゃ。それはびっくりして、立ち話というわけにはいかんからな、ゆっくり話を聞くことになったんじゃ。』

『大我講の講中といえば、簡単に講中にはなれなかつたでまっすん？東円寺に来てくれた人は、どこの村のどういう人でまっすん？発見された古文書には、どのようなことが書かれていたでまっすん？とても興味深いはなしでまっすん。』

『そう焦るでない。その方は、富士山世界文化遺産に登録された後、古文書を発見したんじゃ。富士山と関わりのある古文書であることは分かったそうじゃが、古文書の傷みが激しく、自分で読み解くことは難しいと思い、山梨県立博物館に相談に行ったそうじゃ。大我講についての研究は、されていないと言っても過言じゃないほど未解明なことが多いんじゃ。県立博物館で解読して下さることになり、現在その古文書は、県立博物館に預けておられるそうじゃ。東円寺の講中名簿を探すと、確かに「矢木沢村・傳重郎」と訪ねて来られた方のご先祖の名前が書かれてあったぞ。その家は600年以上続く家柄でな、家を守るという意味では、とてもご苦労された話を聞いたんじゃ。しかし、大我講については、ご両親などから言い伝えられたことはなかったようで、全く分からないというんじゃ。』

『大我講が盛んだったのは、20年ほどでまっすん。そのように考えると、短い期間の間に多くの石碑や、忍野八海の再興という大事業を成し遂げたでまっすん。すごいことだでまっすん。けれども、活躍する期間が短かったために伝承されなかったことが残念でまっすん。』

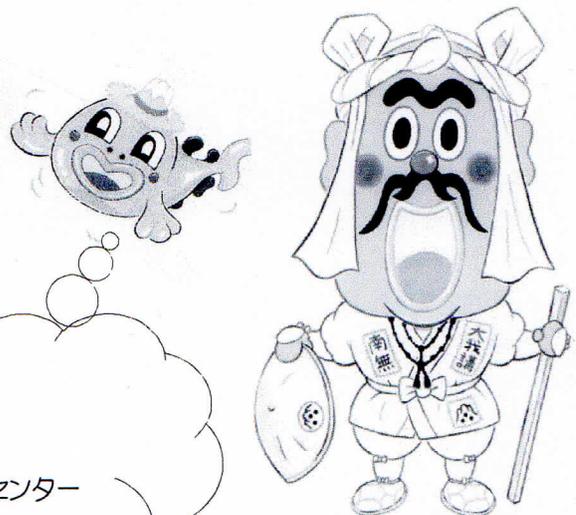
『そうなんじゃよ。県立博物館に預けられた書類の一覧表を見せてもらったんじゃが、古文書の痛みが激しく解読が難しいものも多いようじゃ。けれども、読み解くことができるものもあるようじゃから、新発見があると思うぞ。また、連絡をくださることになっておるんじゃ。』

『どんなことが書かれているのか楽しみでまっすん。大我講の文書が見つかるなんて奇跡でまっすん。最新情報を講左衛門通信でお知らせできると嬉しいでまっすん。』

『そうじゃな。さて、今回は、現在の市川三郷町（旧市川大門町）にある大我講の石碑について

紹介しようと思っておるんじゃ。険しい山の中に、大我講の石碑は建っておるんじゃよ。是非、多くの人に石碑探しをしてほしいと思っておるんじゃが・・・』

クニマッスン  
出生地 忍野村  
山梨県水産技術センター  
口癖 でまっすん..



ふじのだいごうざえもん  
富士大我講左衛門 年齢不詳  
職業 大我講の先達  
(先達とは案内責任者)